

平成 17 年度近畿環境パートナーシップオフィス
運營業務（上半期）報告書

2005 年 9 月 30 日

きんき環境館（近畿環境パートナーシップオフィス）

<目 次>

1) 平成 17 年度事業方針	2
2) 業務実施の仕組み	2
3) 平成 17 年度事業(上半期)報告	3
(1) 維持管理業務	3
(2) 近畿オフィス広報・後援業務	5
(3) 環境パートナーシップ担い手育成業務	7
(4) 環境パートナーシップに係るタウンミーティング業務	8
(5) 環境情報の受発信業務	10
(6) 協働事業業務	12
(7) 運営委員会	13
(8) その他業務	13

<平成 17 年度近畿環境パートナーシップオフィス運営業務(上半期)報告書>

1) 平成 17 年度事業方針

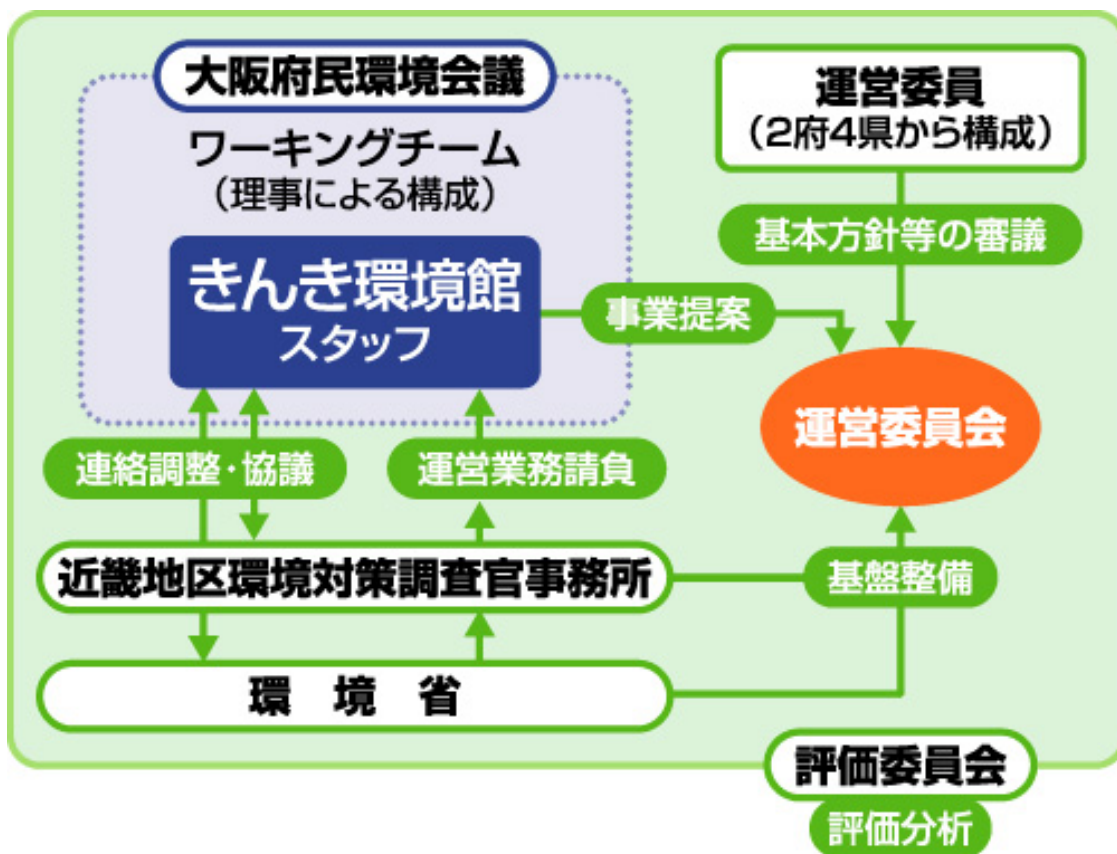
平成 17 年度は、昨年度の基盤整備を受け、当初計画した事業を運営委員会において協議しつつ、近畿 2 府 4 県のフィールドで展開していく期間にあたります。

主な事業としてはパートナーシップの担い手の充実・拡大、意見交換の場作り、環境情報の受発信等があります。また、環境省近畿地区環境対策調査官事務所や近畿 2 府 4 県の運営委員との協働など、運営方法についても、事業展開する中で機能させていきます。また、平成 17 年度は、これらの業務を展開していくだけでなく、適宜フィードバックして実証していく年度でもあります。

2) 業務実施の仕組み

平成 16 年度に発足した体制で業務を実施していきます。

図 1：業務実施の仕組み



3) 平成 17 年度事業（上半期）報告

(1) 維持管理業務

業務の目的：施設の適切な維持管理による業務の円滑化、来館者等への対応の充実などによる環境パートナーシップの促進を図ります。

ア) 開館日時

「平成 17 年度近畿環境パートナーシップオフィス（以下、「きんき環境館」という）運營業務（上半期）仕様書」に基づき、原則として火曜日～土曜日（日・月曜日および祝日、旧盆以外）の 10:00～19:00 を開館時間として設定、運営しました。なお、当施設主催事業等の都合により、一部、全日もしくは時間限定で休館日の開館、開館日の休館しました。

イ). 来館者

4月1日～9月30日までの来館者総合計は732人でした。きんき環境館を会場とした主催行事の参加人数を除いた来館者は430人でした。曜日別の来館者数では、主催行事を除いた火曜日の来館者の多さが目立ちます。週明け最初の業務日であることが一要因であると考えられます。

表 1：月別開館日数

開館月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
開館日数	21	19	22	22	21	21	126

主催行事等による休館日の特別開館（2日）含む

表 2、図 2：月別来館者数

月別来館者数		
	主催以外	全体
4月	84	84
5月	88	147
6月	71	216
7月	67	102
8月	43	71
9月	77	112
合計	430	732

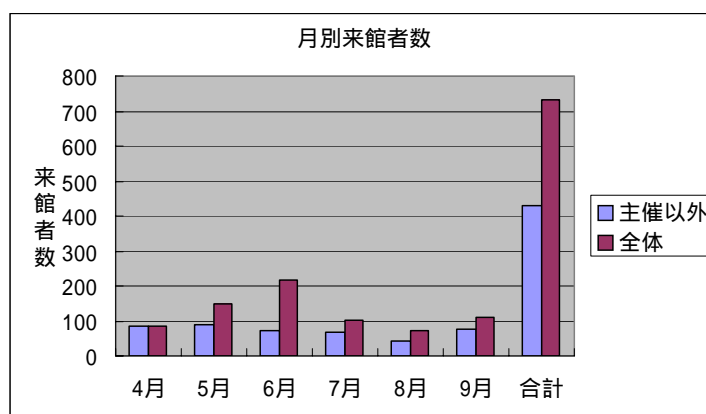


表 3、図 3：月別平均来館者数

月別平均来館数		
	主催以外	全体
4月	4	4
5月	4.6	7.7
6月	3.2	9.8
7月	3	4.6
8月	2	3.4
9月	3.7	5.3
平均	3.4	5.8

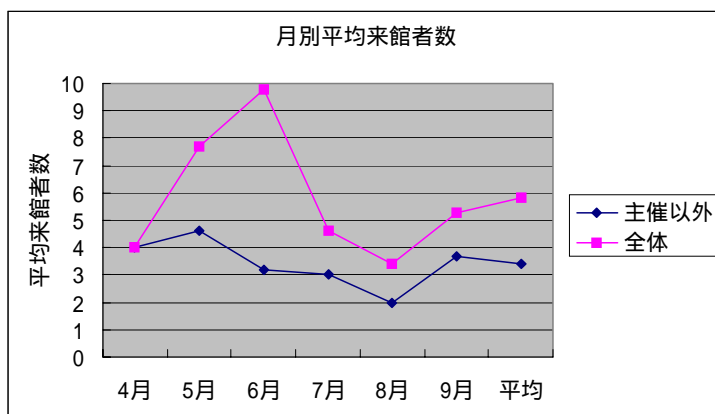


表 4、図 4：曜日別来館者数

曜日別来館者数		
	主催以外	全体
月曜	3	53
火曜	110	126
水曜	82	115
木曜	62	160
金曜	88	127
土曜	85	151
合計	430	732

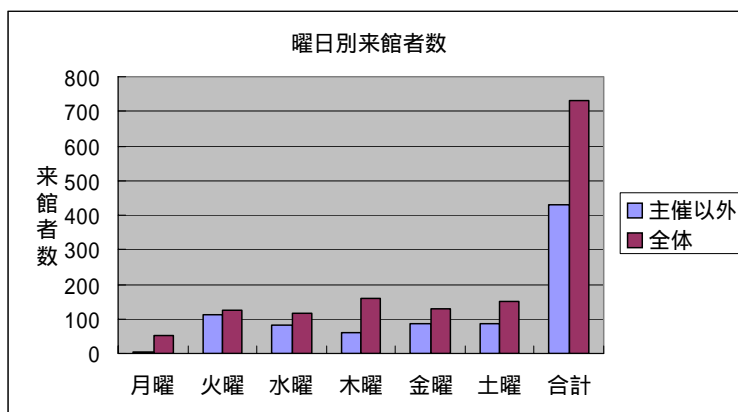
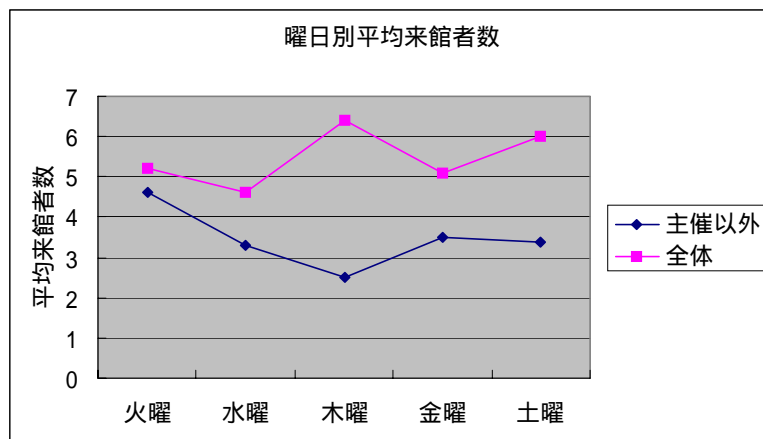


表 5、図 5：曜日別平均来館者数

曜日別平均来館者数		
	主催以外	全体
火曜	4.6	5.2
水曜	3.3	4.6
木曜	2.5	6.4
金曜	3.5	5.1
土曜	3.4	6



ウ) 職員の配置

職員を3名配置し、原則として3名とも開館時間での勤務とし、維持管理業務をはじめとした業務を実施しました。

また、職員による運営を適切にサポートするため、平成16年度で設置した、特定非営利活動法人 大阪府民環境会議内でのワーキングチームが業務のサポートにあたりました。

エ) 今後の方向性

館内で提供する情報や相談対応、館内利用などのあり方については、平成17年度もまだ半期ということもあり、継続して利用者のニーズを定量的に把握し、適切な館内運営を実施していく必要があります。アンケートの実施やヒアリング、利用状況の調査などで、適切な館内の維持管理を実施していきます。また、各地の環境拠点施設と適切な連携をとりながら、提供する内容を検討します。

(2) 近畿オフィス広報・後援業務

業務の目的：広報業務は、きんき環境館の業務を広く周知し、社会的認知度の向上、利用の促進、新しい取組みの可能性などを創造します。後援業務に関しては、きんき環境館が後援や協力などを行うことにより、環境パートナーシップや環境教育が推進されるなどの効果が見られる場合、必要な後援や協力を行うものです。

ア) 近畿オフィス広報業務

事業の案内や打合せ、催事の参加等で、近畿2府4県の市民・NGO/NPO、事業者、行政等に必要な広報を実施しました。参加した催事と参加方法については表6の通りです。また、新聞等メディアや各団体広報誌等にも行事等が紹介されました(資料編参照)。

イ) 近畿オフィス後援業務

9月30日現在で、2件の後援名義申請があり、必要書類を受領後、名義使用を許可しました。

表 6 : 参加催事・参加方法

日時	催事名	場所	主催者	参加形態
4月16日(土)	わかやま環境ネットワーク設立総会	県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛	(特活)わかやま 環境ネットワーク	来賓
4月24日(日)	アースデイおおさ か2005	大阪ビジネスパ ーク	アースデイ大阪 実行委員会	ブース出展
4月24日(日)	アースデイ&エコセン3 周年記念イベント	京エコロジーセ ンター	京エコロジーセ ンター	ブース出展
4月24日(日)	アースデイ平城京 2005・ストップ温 暖化県民集会	平城宮跡資料館 など	奈良環境ネット ワーク	ブース出展
5月20日(金)	環境学習施設ネット ワーク会議	京エコロジーセ ンター	京エコロジーセ ンター	会議参加者
5月27日(金)	ATC グリーンエコ プラザセミナー	ATC グリーンエ コプラザ	ATC グリーンエ コプラザ	一般参加者
6月2日(木)	ATC グリーンエコブ ラザシンポジウム	ATC グリーンエ コプラザ	ATC グリーンエ コプラザ	一般参加者
6月17日(金)	滋賀県環境学習セ ンター開所式	滋賀県環境学習 支援センター	滋賀県環境学習 支援センター	一般参加者
6月25日(土)	ECO 縁日 2005	生き生き地球館	生き生き地球館	ブース出展
6月28日(火) ~30日(木)	きんき環境展 in 大 阪	曽根崎地下歩道イ ベントスペース	環境省近畿地区環境 対策調査官事務所	ブース出展
7月15日(金)	なんか変やで!気 候の危機を考える	大阪府農林会館	フォーラム気候 の危機	一般参加者
8月6日(土)	なら環境フェア	奈良県広域地場産 業振興センター	奈良県、奈良県 環境県民フォー ラム	一般参加者
8月26日(金)	市民活動・NPOの ための個人情報保 護講座	草津市立市民交 流プラザ	淡海ネットワー クセンター	一般参加者
9月8日(木)	2005NEW 環境展	南港インテックス	(株)日報イベント	一般参加者
9月11日(日)	キーワードはグリー ンツーリズム 環境 を切り口とした地域 づくりを考える	川上総合センター やまぶきホール	(財)吉野川紀 の川源流物語、 森と水の源流館	一般参加者

ウ) 今後の方向性

平成 17 年度上半期では、近畿 2 府 4 県での事業計画や各地域での企画の参加などによる広報で、一定の社会的認知度が向上しました。今後は事業展開しながら広がるネットワークなどを活用し、より幅広い周知による社会的認知度の向上と、そこからの新たな環境パートナーシップの促進の可能性を探っていきます。

(3) 環境パートナーシップ担い手育成業務

業務の目的：地方自治体職員に向け、環境パートナーシップの理念の普及と実践を目指します。具体的には講座終了後、受講者が環境パートナーシップによる環境保全に係る取り組みの実践に結びつけることなどです。

ア) 『環境ゼミナール』の開催(3回)

環境パートナーシップの担い手として、今年度は特に行政職員に着目し、講座を開催しました。

(ア) 第 1 回

日 時：5 月 16 日(月) 13:30~16:00

場 所：きんき環境館

テーマ：講座 自然エネルギー利用の可能性と効果
講座 大阪府における E S C O 事業の取り組み
講 師：講座 日本太陽エネルギー学会理事 石塚猛氏
講座 大阪府建築都市部整備課課長補佐 田邊陽一氏

形 式：室内講義および質疑応答

参加者数：30 人

(イ) 第 2 回

日 時：8 月 22 日(月) 13:30~16:00

場 所：きんき環境館

テーマ：協働で取り組む環境事業を考える
~ こうすればできる環境教育の協働事業づくり ~

講 師：西宮市環境局環境部都市推進グループ
グループ長 小川雅由氏

形 式：室内講義および質疑応答

参加者数：24 人

(ウ) 第3回

日時：9月2日(金) 13:30~16:00

場所：大阪府環境情報センター実験室(いこらぼ)

テーマ：水の環境学習について

講師：滋賀県環境学習支援センター 所長 井坂尚司氏
(講義)

大阪府環境情報センター 環境情報室 環境教育
推進課 課長 山本宏司氏

形式：実験室での講義および簡易実験

参加者数：30人

ウ) 今後の方向性

自治体職員対象の講座については、今年度はニーズの把握というねらいもあり、さまざまな内容の講座を実施してきましたが、参加者のアンケートや各地でのヒアリングなどでニーズを吸収しながら、目標を達成できる内容の検討、受講生の定点観測や協働事業への参画などで、実践につながる講座の質を高めていきます。

(4) 環境パートナーシップに係るタウンミーティング業務

業務の目的：各地域の環境パートナーシップの現状を把握しタウンミーティングを企画、実施します。具体的なテーマを設定して各府県の状況に合わせた、環境パートナーシップの機会の創出と促進を図っていくことをねらいます。

ア) 『きんき環境館タウンミーティング2005』の開催

(ア) きんき環境館シンポジウム(大阪でのタウンミーティング)

日時：6月27日(月)

場所：大阪府立労働者センター(エルおおさか)南館ホール

テーマ：環境月間行事/きんき環境館シンポジウム2005
持続可能な社会を目指して近畿地域の新エネルギー
ビジョンを考える! ~活かそう! 地域環境力~

形式：事例報告およびパネルディスカッション

内容：「温暖化防止」をテーマに各府県でタウンミーティングを実施していくキックオフイベントと位置づけました。温暖化防止に効果が期待できる自然エネルギー・新エネルギーを用いた協働による地域づくりをテーマに、事例紹介とパネルディスカッションを

実施しました。

参加者数：107名

(イ) 和歌山県でのタウンミーティング

日時：9月10日(土) 14:00～17:00

場所：和歌山地域地場産業振興センター 5階経営研修室

テーマ：きんき環境館 タウンミーティング 2005 in 和歌山
紀州和歌山からつくり脱温暖化社会！

形式：講演およびパネルディスカッション

内容：和歌山県地球温暖化防止活動推進センターの開設セレモニーとタイアップして開催しました。温暖化防止活動に関する講演をもとに、和歌山県においてどのように温暖化防止活動を推進していくかを、質疑応答を通して考えました。

参加者数：117名

(ウ) 兵庫県でのタウンミーティング

日時：9月26日(月) 13:30～16:40

場所：あさごエコハウス(兵庫県地球温暖化防止活動推進センター但馬支所)

テーマ：きんき環境館タウンミーティング 2005in 兵庫
兵庫で根ざそうグリーンエネルギー！

形式：事例紹介および質疑応答

内容：(財)ひょうご環境創造協会主催の『グリーンエネルギー学校』とタイアップして開催しました。比較的实践的な取組みが進んでいる兵庫県の温暖化防止活動を、生活地域レベルの協働でどのように推進していくかを、地域の実践の事例紹介と質疑応答から考えました。

参加者数：33名

イ) 今後の方向性

下半期は滋賀、奈良、京都でも開催し、2府4県で温暖化防止をキーワードに、地域の環境パートナーシップの促進を事業の計画・実施を通して引き続き進めていきます。また、来年度以降も地域での環境パートナーシップの促進のために実施していく基盤を各府県でつくるために、並行して各地域の市民・NGO/NPO、事業者、行政等に働きかけていきます。

(5) 環境情報の受発信業務

業務の目的：環境パートナーシップの促進、それによる協働による環境保全活動、環境教育の推進などのための情報を、あらゆる形で発信・提供する。また、情報発信のあり方、各環境情報発信をしている主体との適切な連携のあり方も検討していく。

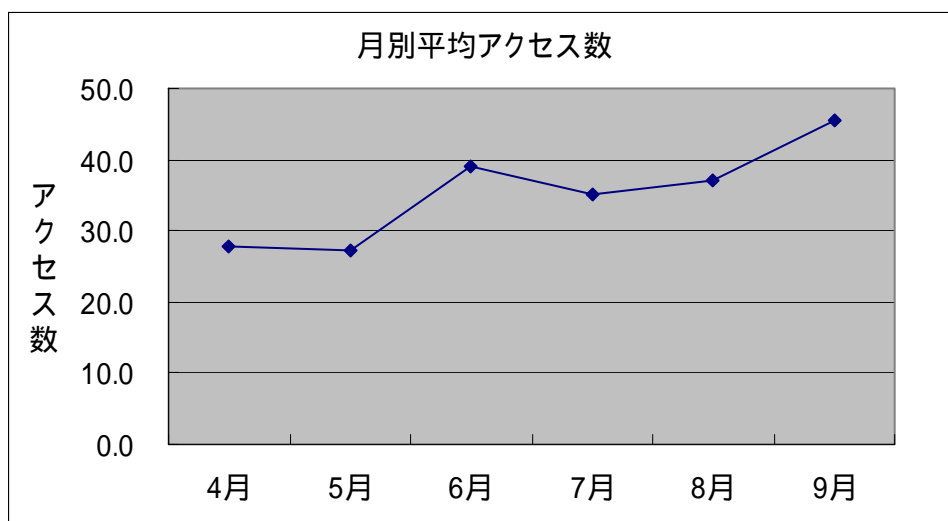
ア) ホームページの常時開設・更新

平成 16 年度に開設したホームページに関して、内容の充実を図り、定期的な更新を軌道に乗せました。アクセス件数(表 7)、月別アクセス件数の平均値(図 6)に関しては以下のとおりです。

表 7：きんき環境館ホームページアクセス数(トップページアクセス数)

月	1日平均	日数	アクセス数
4月	27.9	30	836
5月	27.1	31	841
6月	38.9	30	1168
7月	35.0	31	1085
8月	37.1	31	1150
9月	45.5	30	1365
合計	35.2	183	6445

図 6：アクセス数月別平均(トップページアクセス数)



イ) 環境関連団体情報・事業情報の収集・管理

各府県で得た情報、きんき環境館の事業実施時に得た情報等を適正に管理しました。主に行事案内発送先などとして活用しました。

ウ) 情報誌「きんき環境館」の発行

きんき環境館の取組みを紙面で発信していくため、9月に情報誌「きんき環境館」を3,000部発行し、近畿地域の環境拠点施設等に配布しました。

エ) 環境パートナーシップ事例調査

基礎的な指標をもとに、試行的に以下の4ヶ所でヒアリングによる調査をしました。

- ・地球デザインスクール（京都府宮津市、調査指標の確認）
- ・生き生き地球館（大阪府大阪市、情報誌取材を兼ねる）
- ・こうべ環境未来館（兵庫県神戸市、情報誌取材を兼ねる）
- ・森と水の源流館（奈良県川上村、情報誌取材を兼ねる）

オ) オンラインによる環境情報共有化の試行

地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEIC」という）・環境パートナーシップオフィス（以下、「EPO」という）地方EPOスタッフ合同会議で、現在各オフィスが実施しているホームページなどの情報提供事業について、その共有の方法、可能性等について検討をしました。行事情報については、きんき環境館では団体の情報発信の手段として、GEICの「環境らしんばん」も利用していく方針としました。

カ) 相談対応・事例蓄積

来館や電話などで問合せを受けた用件に対して、きんき環境館の対応できる範囲内で相談対応をしました。また、環境省近畿地区環境対策調査官事務所と連携して、相談の対応に当たるケースもありました。

キ) メディアへの情報提供

きんき環境館が主催する行事には、事前にメディア関係にも案内をし、当日対応も行いました。

ク) 今後の方向性

環境情報受発信の各事業に関しては、平成 16 年度で作った基盤や方向性をもとに本格的な運用を開始しました。この中で、環境パートナーシップ事例調査は、各事業を展開する中で入手できる基礎情報をもとに調査・研究を進めます。近畿の環境パートナーシップ促進や的確な相談対応などのために必要なノウハウを提供するために、一定の指標に基づいて、一定量の質を確保しながら蓄積、活用を目指します。

(6) 協働事業業務

業務の目的：パートナーシップ団体の意見集約や他主体との協働事業を目指します。環境分野における協働のモデル事業とし、普及・促進させることを目指します。

ア) パートナーシップ団体登録の仕組み

平成 16 年度に開始したパートナーシップ団体登録の仕組みを、引き続き実施しました。9 月 30 日現在の登録団体数は 52 件となっています。

パートナーシップ団体には主に環境情報や設備の共用を提供するとともに、きんき環境展でのブース出展やエコライフフェア(後述)などを協働して実施しました。

イ) パートナーシップ団体の集い

日 時：9 月 1 日(木)

場 所：きんき環境館

形 式：情報交換会を兼ねた交流会

参加団体：10 団体 参加者：18 名

内 容：パートナーシップ団体との情報交換会を兼ねた交流会を実施しました。

ウ) 今後の方向性

パートナーシップ団体に登録する団体は緩やかながら伸びを見せています。その目的は情報受発信や施設の利用、事業充実のためなどさまざまです。これらのニーズを分析しながらも、各地での環境パートナーシップによる協働の促進を目指すための流れづくりと実際に団体が主体的に携わる創出、その的確なマネジメントが求められます。

(7) 運営委員会

業務の目的：近畿2府4県および各セクターから委員を募り、きんき環境館の運営を円滑でバランスの取れたものにするため、運営委員会を設置しました。

ア) 運営委員の構成

平成17年度運営委員の構成は、平成16年度に就任した9名に加え、環境省近畿地区環境対策調査官事務所、特定非営利活動法人大阪府民環境会議、きんき環境館スタッフから各1名が加わり、計12名で構成しました。

イ) 平成17年度運営委員会の開催(2回)

(ア) 第1回運営委員会 5月20日開催(出席11名)

平成16年度事業報告、平成17年度事業計画・進捗状況報告、運営委員会のあり方の検討、情報交換など

(イ) 第2回運営委員会 9月16日開催(出席10名)

平成17年度上半期事業進捗状況報告、平成17年度下半期事業計画、平成18年度計画概要検討など

ウ) メーリングリストの開設

きんき環境館と運営委員の連携を密にするため、メーリングリストを開設、運用しました。

エ) 今後の方向性

平成17年度は4回実施することとしています。下半期にも2回開催します。タウンミーティングの開催など、地域での運営委員の協力は大きいため、今後も会議以外での協力のあり方も模索していきます。

(8) その他業務

業務の目的：環境パートナーシップを促進するための事業のうち、ア)～キ)までの内容以外できんき環境館が実施した業務とします。主に環境省本省や環境省近畿地区環境対策調査官事務所とのタイアップ事業を実施しました。

ア) 環境省本省との協働事業

(ア) 中央環境審議会地球部会国際協力専門委員会に関する説明・意見交換会

日 時：5月26日（木）13：00～15：00

場 所：きんき環境館

形 式：説明会およびグループ討議

参加人数：29人

内 容：中央環境審議会地球部会国際協力専門委員会が作成した答申「今後の国際環境協力の在り方について」についてのパブリックコメント期間であることを利用した説明会を実施しました。参加者が十分に議論できるように、グループディスカッション方式で、説明者側も交えて意見交換会を行いました。

（イ）政策提言に向けた意見交換会

日 時：7月28日（木）13：30～16：40

場 所：きんき環境館

形 式：説明会およびグループ討議

参加人数：30人

内 容：「NGO/NPO・企業環境政策提言」事業の募集中ということも兼ねて、従来東京のみで実施してきた政策提言セミナーを近畿地域でも開催する趣旨で開催しました。単なる説明会でなく、参加者が環境分野で政策提言をするにあたって、さまざまな主体との関係を考慮しながら政策提言をすることを体験する場として、グループ討議も実施しました。

イ）環境省近畿地区環境対策調査官事務所との協働事業

きんき環境館エコライフフェア

日 時：展示...6月11日（土）～6月25日（土）

イベント...6月25日（土）

場 所：きんき環境館

形 式：展示および最終日は展示団体等によるイベント

参加人数（期間中来場者）：167人（開催期間11日）

内 容：環境月間行事として、「エコライフ」に関する取組みを実施している団体が展示を行い、さまざまなエコライフの取組みを展示しました。また、最終日にはエコライフに関するイベントを実施し、展示参加団体が企画を実施しました。

ウ) 今後の方向性

きんき環境館では、上半期に環境省本省や環境省近畿地区環境対策調査官事務所などとの協働事業を実施しました。環境省本省などとの協働事業は、地域と環境省本省をつなぐ役割としてのきんき環境館の役割を果たすものともいえます。今後は、環境省以外の主体と協働事業を実施することも増えてくる可能性が高いため、その推進体制を確立しておくことが求められるといえます。